

	発行者の略号	東書	開隆堂
	書名	新しい家庭 5・6	わたしたちの家庭科 5・6
<b>(ア) 教科・種目に共通な観点</b>	<b>①編集の趣旨と工夫</b>	児童が生活していく楽しさを実感し、力強く未来を拓くための資質・能力を育成することを目指している。その工夫として、「生活をより変えていく力を身につける(4つの見方・考え方、日本の文化に気付くなど)」「問題解決的な学習を展開できる」「実践的・体験的に楽しく学びながら、生活の自立を目指す」の3つの特色をあげている。	(1)自分や家族の生活を見つめ直し、生活をよりよくしていく「ストーリー性のある教科書(主人公は小学生、系統的な題材の配列など)」「(2)生活から課題を発見し、解決するための「見方・考え方が身につく教科書」(3)主体的に考え、生活を工夫するための「問題解決型学習を充実させた教科書」の3つの基本的な考え方で編集されている。
	<b>(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連</b> <b>「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</b> <b>①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮</b> <b>②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮</b> <b>③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮</b>	① 実践的・体験的な題材が多く掲載されている。めあてと振り返りを意識させている。 ② 「見つめる」「計画・実践する」「生活に生かす」の3つのステップで大題材を構成して、問題解決的に学習に取り組めるようにしている。 ③ 自己の成長を実感する「成長の記録」、長期休暇の前に生活の課題を見つけ解決に取り組む「生活を変えるチャンス!」、働く人を特集した「プロに聞く!」、地域の一員として自分ができることを考えられる資料を掲載し、生活に結び付けるようにしている。	① 実践的・体験的な題材が多く掲載されている。めあてと振り返りを意識させている。 ② 「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで題材を構成し、深い学びを実現できるようにしている。 ③ 題材ごとに生活に生かそうコーナー、長期休暇の前に生活の課題を見つけ解決に取り組む「チャレンジコーナー」、職業観を養い、社会に目を向けるために働く人からのメッセージを各所に入れることで、生活に結び付けるようにしている。
	<b>(イ) 市町の方針との関連</b> <b>①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町</b>	① 「命を大切にする心」…防災教育として「日々の備え」がコラムで掲載されている。「健やかな心と体」…生活時間を見直す内容から朝食の摂り方を考え、食べるときのマナーなど取り上げ、自ら意識できるようにしてある。  ②③④ 足柄下郡の地域性に関連する資料はない。どの地域でも使いやすいよう、題材が組み替えやすくなっている。活動や実習例を豊富にすることで、選択できるようになっている。	① 「命を大切にする心」…災害時の具体的な対応を促す「防災マーク」を記載し、日常生活から防災意識を高めている。「健やかな心と体」…生活時間の工夫と朝食を関連づけ、食生活の改善と健康に過ごすことを考えられる。食事マナーや食物アレルギーについて取り上げられている。 ②③④ 足柄下郡の地域性に関連する資料はない。どの地域でも使いやすいよう、題材が組み替えやすくなっている。活動や実習例を豊富にすることで、選択できるようになっている。
	<b>(ウ) 内容と構成</b> <b>○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</b> <b>①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮</b> <b>②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮</b> <b>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</b> <b>③言語能力の確実な育成</b> <b>④伝統や文化に関する教育の充実</b> <b>⑤体験活動の充実</b> <b>⑥学校段階間の円滑な接続</b> <b>⑦情報活用能力の育成</b> <b>⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫</b> <b>⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</b>	① 自分の考えや友達の考えを記入し、「交流しよう」というマークを提示し、話し合えるような形式になっている。 ② 他教科との関連する内容にはマークが付けてある。家庭科に関係のある英単語を脚注に記載している。 ③ 実践したことのまとめ方の例など提示してある。 ④ 「日本の伝統」マークを掲載し、日本茶、ご飯、みそ汁、伝統食品、郷土料理、てぬぐいなどを特集している。 ⑤ 実習・製作などの活動が取り入れられている。 ⑥ 4年生までの学習との関連が示されている。中学校家庭分野と関連を示すために、「関連マーク」を掲載している。 ⑦ アドレス、QRコードが目次について、「Dマーク」がついている内容は、インターネットに接続し、調理や製作に関する動画を見ることができる。 ⑧ 色覚の多様性に配慮し、色のみではなく文字を付け足している。また、独自に開発されたユニバーサルデザイン教科書体を採用し、字形を判別しやすくしている。 ⑨ 基礎・基本から応用へと系統的に配列している。5年生で学んだ技能を6年生でも使うことで確実な定着を図るようにしている。	① 児童同士や家族・身近な人たちと行う「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」などの活動が随所に入っている。 ② 関連マークで他教科とのつながりが示されている。家庭科に関係のある英単語を脚注に記載されている。また、巻末にも家庭科の用語があり、英語での表記がある。 ③ レポート作成や発表の場面で学習過程の各所に設定されている。 ④ 和食や郷土料理、伝統的な民家や和服などを取り上げ、また、日本各地の伝統文化の事例を充実させている。取り上げている箇所には「伝統文化マーク」を示している。 ⑤ 実習・製作などの活動が取り入れられている。 ⑥ 4年生までの学習を家庭科につなげるページがある。中学校家庭分野へのつながりを見るページがある。 ⑦ QRコードが各所について、読み取ると動画を見ることができる仕組みになっている。巻末に生活の中のプログラミングが紹介されている。 ⑧ 弱視の子に読み取りやすいカラーデザインの配慮、罫線や色付けなどの工夫がされている。文の意味がつかみやすいように、1つの単語が行をまたがないようにしてある。 ⑨ 基礎・基本から応用へと系統的に配列している。5年生で学んだ技能を6年生でも使うことで確実な定着を図るようにしている。
<b>(イ) 分量・装丁・表記等</b> <b>① 各内容の分量とその配分は適切であるか。</b> <b>② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。</b> <b>③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。</b>	① 概ね適切である。 ② A4判を用いることで、情報量を充実させている。調理手順や製作手順は、大判の紙面を生かして分かりやすく示してある。児童の視線の流れを考慮して見開きページを使い、中心に大きく横に流れる記述で、作業手順が載っている。 ③ 専門的な用語については、脚注などに簡潔な表現で解説されている。ふり仮名が必要箇所に付けられている。調理実習や製作実習の手順は、写真・イラストを掲載し分かりやすくしてある。児童のキャラクターが吹き出しで学習ポイントを示唆してある。家庭科で扱う重要語句が太字で示されている。	① 概ね適切である。 ② A4判より少し小さいため、作業するときにスペースを取らず、見やすい。調理や製作などの実習手順図は、児童の視線の流れを考慮して見開きページを使い、中心に大きく横に流れる記述で、見やすい配慮がされている。 ③ 専門的な用語については、脚注などに簡潔な表現を解説されている。ふり仮名が必要箇所に付けられている。調理実習や製作実習の手順は、写真・イラストを掲載し分かりやすくしてある。家庭科で扱う重要語句には太字(ゴシック体)で、表記のめりはりがつけられていて読みやすい。	
<b>(イ) 教科・種目別の観点</b>	<b>①生活の営みに係る見方・考え方を働かせた学習となるよう、題材に工夫や配慮はなされているか。</b>	① 家庭科の4つの見方・考え方(協力、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会)が目次で紹介され、各大題材の最初に「家庭科の窓」を設定し、見方や考え方の視点を意識して、学習が進められるようにしてある。 ① 「持続可能な社会の構築」を消費者教育と合わせて大題材で大きく取り上げている。	① 目次に「生活の見方・考え方4つの視点」(協力・助け合い、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会)として図化し、全体にわたってマークやイラストで配置してあり、一連の学習過程の中で生活の営みに係わる見方や考え方を働かせることのできる構成になっている。
	<b>②日常生活に必要となる基礎的な知識及び技能の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として取り上げるなど工夫や配慮がなされているか。</b>	② 各実習には、「できたかな」の囲みを入れてあり、自己評価として活用でき、技能の定着を図ることができる。 ② 巻末資料に、「いつも確かめよう」というページを設定し、見返しやすくしている。持ち方や手縫いの仕方など手をのせて練習できる実寸大写真を掲載している。 ② 学習内容を生活に結び付ける方法例を示している。 ② 調理実習や製作実習において器具・用具の扱い方、衛生面など「安全マーク」を付けて注意喚起している。また、巻末の折り込みに「安全に実習しよう」という特集を掲載し、安全指導を徹底している。	② 導入部では、「なぜ縫う、調理するのか」など、学ぶ意味を児童に問いかけている。各実習では、「できたかな」の具体的な振り返り項目がある。 ② 実習の写真は児童の目線から見たアングルなので調理のイメージがしやすい。「切り方の一覧表」を掲載し、実習中にいつでも確認できるようになっている。手縫いの仕方は実物大の写真で見やすい。 ② 調理や製作実習を安全に行うために特設ページを設けたり、イラストや安全マークなどで注意すべきことを分かりやすく示したりしている。
	<b>③生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決していく題材として工夫や配慮がなされているか。</b>	③ 「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」「深めよう」という項目を題材の終わりに提示し、学習内容を生活に結び付け、日常生活の問題を見だし、解決できるようにしてある。 ③ 長期休暇の前に、生活の課題を見つけ、解決に取り組む「生活を変えるチャンス!」を設定し、児童の生活の中から課題を見つけられるようになっている。 ③ 学習したことを自己評価し、「成長の記録」「5年生のまとめ」「2年間のまとめ」で学習の振り返る場面を設けている。	③ 題材の導入では、生活を見つめられる写真やイラストを提示し、問題に気付く展開となっている。 ③ 学習内容を生活に結び付け、学習の中で他者との交流を図り、日常生活の問題を見だし、解決できるような学習過程になっている。「生活の課題と実践」の事例を掲載している。 ③ 学習したことを長期休業中に取りまとめる事例として「チャレンジコーナー」を掲載し、家庭で調べたり実践したりできるようにしている。